資料５

令和６年度　全校研究アンケート集計結果

研究部

令和６年度の全校研究では、次の研究仮説のもとで進めてきました。

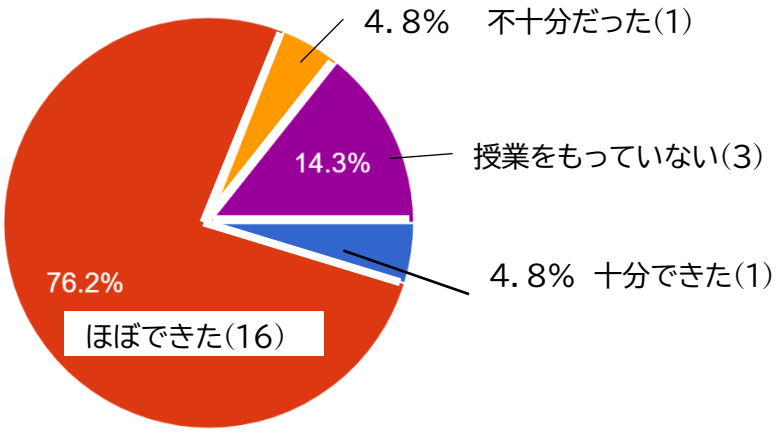
次の手立てを講じることで、「児童生徒一人一人が主体的に学び、学びを広げる姿」を育むことができるであろう。

柱１　国語科の段階、目標等の設定
柱２　教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成
柱３　重点事項（「適切な言語環境づくり」「具体的に考える場面設定と工夫」）に基づく、国語の授業づくり・授業実践
柱４　「各教科等を合わせた指導」等における学んだことの活用

★１　令和６年度の全校研究について、お答えください。

次の設問項目について、該当する評価に〇をつけてください。

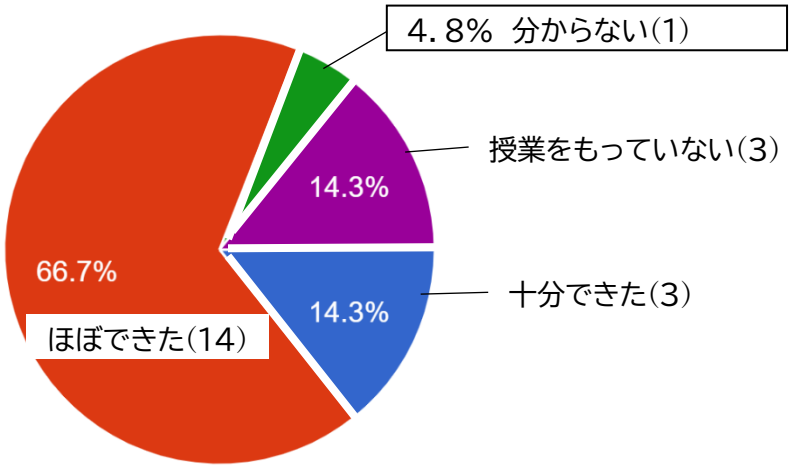
Q１　（柱１について）学部研究を通して学習指導要領の理解に基づく学習状況と課題を整理したり、児童生徒一人一人の段階や目標を設定したり、年間単元の工夫をしたりすることができた。



〇年度初めに学年グループの年間単元等を話し合い、一人一人の段階、目標を確認した。
〇児童生徒一人一人の段階を確認し、生活に生かせるような単元を設定した。
〇他の学習でも学んだことを生かせるように授業を計画するようにした。
〇学部の先生方全員で生徒一人一人の課題を整理し、目標や年間計画を設定した。
〇高等部は、自立活動の内容も含まれた「国語科」の指導概念図があり分かりやすかった。
〇年度初めに学部で生徒の実態について共通理解ができた。
〇年度初めの学部研で確認、共通理解することで目標の設定や単元の工夫ができた。

〇生活につながる単元構成や目標設定を行った。
〇学部研究会を通して、多くの方の意見を取り入れながら個々の目標を設定した。
〇生徒の発達段階に応じた教材を作成し、活用することができた。
〇児童の興味関心を生かした単元の工夫をした。
〇学習指導要領解説「目標・内容の一覧」を基にした、学部職員全員による児童の実態把握や目標設定の話合いができた。
〇指導内容確認表をもとに児童一人一人の段階を学部で共通理解し、年間指導計画の作成を行った。このことにより、目標の設定が適切にできたと考える。
〇実態把握を行い、学んだことを生かす場面を想定し、学習グループの編成を行った。
〇目標設定については、ねらいを焦点化する難しさもあった。実態把握をする上では、学習指導要領の内容一覧をもとに、課題を整理したことは有効だった。

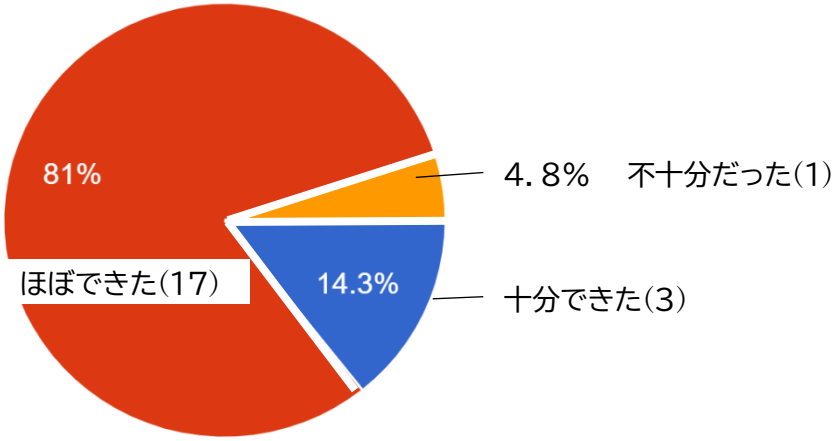
Q2（柱２について）学部研究を通して国語科及び他教科、各教科を合わせた指導等を関連付けたり、国語科の単元計画を工夫して作成したりすることができた。
（全校授業研究会や学部授業研究会、授業を見合う会等の単元）



〇 作業学習週間や修学旅行など行事に絡めて単元を設定した。
〇 国語科以外の授業でも意識的に自分の意見を話したり、ロイロノートに入力したりする機会を設けていくことが必要だと感じた。
〇 気持ちを表す言葉を学習し、学習の振り返り場面で活用したり、発表の仕方を学び改まった発表場面で活用したりした。
〇 修学旅行や宿泊学習、作業学習など、生徒が体験したことを基に、覚えてほしい言葉や表現の仕方を学習することができた。
〇 高等部は、自立活動の内容も含まれた「国語科」の指導概念図があり分かりやすかった。
〇 高等部はグルーピングが総合と一緒で、関連付けを図れた。
〇 めあての焦点化、めあてにつながる導入は効果的だった。
〇 国語科で身に付けたコミュニケーション力を観光科や総合の学習において活用する場面を設定した。
〇 学部授業研究会を通して、国語科と他教科との関連について確認したことで、それを踏

まえた授業づくりをすることができた。
○ 行事の招待状や交流のお礼状などタイムリーな文章作りを計画した。
○ 全校授業研究会に係る指導案検討や、授業を見合う会（学部授業研究会）に係る研究協議が充実していた。
○ 学部研で、学部の先生方からアドバイスをいただいて作成した。
○ 生活単元学習で国語の学習内容が生かされるように、物語を読む、話すことを活動の中心に据えた単元を行うことができた。
○ 実態把握と学んだことを生かす場面を具体的に設定し、学部職員で共通理解を図った。
○ 合わせた指導と関連付けしやすいように、あらかじめ学部で国語科の単元を確認でき良かった。

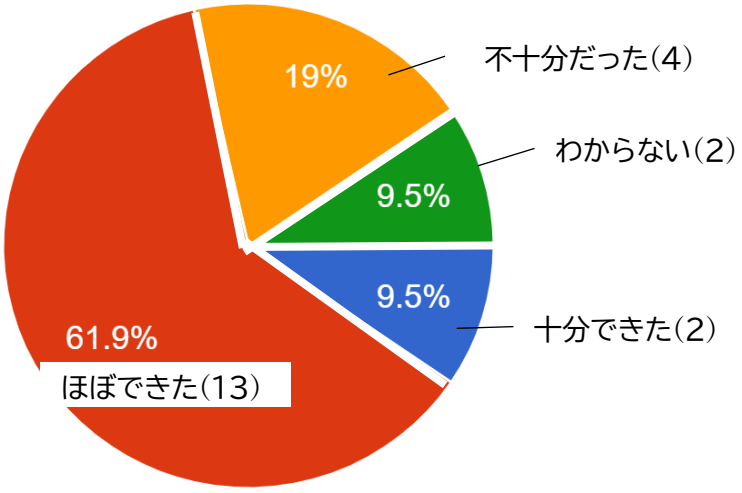
Ｑ３（柱３について）全校授業研究会や学部授業研究会、授業を見合う会において、重点事項「適切な言語環境づくり」「具体的に考える場面の設定と工夫」を踏まえ、授業者や参観者として提示授業や研究会を実施して学んだり、「児童生徒一人一人が主体的に学び、学びを広げる姿」を育んだりするなど、有意義な内容にすることができた。



○ 板書の工夫が話題となり、提示授業はすべて整理、工夫されていた。
○ 授業の本題に入る前の活動内容をどんなものが良いのか考えたり、ねらいを絞ったりするなどの内容は授業研毎に考えさせられ、毎回参考になりました。
○ 授業の動画を見たり、授業研究会で話し合ったりする中で学ぶことができた。
○ 児童生徒が考える場面の仕掛けを学んだ。
○ 教師が発する言葉も大事な言語環境であることを意識し、正しい言葉遣い、生徒に覚えてほしい言葉遣いをするようにした。
○ 協議のシート（ロイロ）に重点事項が明示されており、項目に沿って授業を見ることができた。
○ 高等部として、国語科として取り組むべきことが資料として提示され参観の視点が明確になっていたため、その点をもとに参観し、有意義な学びになった。
○ 研究会を通して、生徒が主体的に学べるような単元構成や題材の工夫について知ることができた。適切な言語環境づくりに向けた取組について学部で共有できたのもよかった。

○ 他学部の授業を参観し、取上げている単元やねらいを達成させるための教材など参考になった。
○ ロイロノートの活用や、重点事項を明確にした協議により、研究を深化させる話し合いをもつことができた。
○ 行事など、実際に体験したことを授業に取り入れた。
○ 全校授業研究会で授業を提示した際、主に「具体的に考える場面の設定と工夫」について協議で話し合われた意見が参考になった。
○ 学部の授業研究会では、授業のねらいを焦点化し、達成するための手立てについて、活発な意見交換を行った。
○ 学部で決めた約束は有効だった。みんなで周知してとりくめた。質問の仕方など、教師の言葉掛けについても考えていくことができた。

Ｑ４（柱４について）「各教科等を合わせた指導」等において、国語の対象単元で学んだことを活用することで、般化を促したり達成感を生み出したりするなど、学びを広げる姿を育むことができた。



○ 高等部において、他教科と関連付けた学習グループにしたことで、他の場面で身に付けた力を発揮する姿が見られた。
○ 交流などの事後学習で感想を書いたり、人前で感想発表したりすることに自信をもって行っている生徒が増えたように思う。話を聞く際の学部ルールも機能している。
○ グループで学んだことを、学級や学部、保護者に伝える機会をもち、達成感につなげることができた。
○ 活用の場面を繰り返し設定したことで、般化につながった。
○ 合わせた指導の中で学んだことを生かして話を詳しくしたり、文を構成して作ったりできる場面が見られた。
○ 国語科で学んだ聞くこと話すことに関する力を、観光科で観光客と接する場で生徒が発揮する場面が見られた。
○ 他教科との関連を踏まえた授業づくりを実践し、また、さまざまな場面で、国語で学んだことを実践するように言葉掛けをしたことで、生徒自身が、国語で学んだことを他の場面

でも生かすことができているように思う。
○ 国語科で学んだことを発信する機会である小学部の「発表会」は、学習の着地点、評価・称賛の到達点として定着しつつある。国語科で学んだスキルは、生活単元学習等での案内状・礼状作りや、交流先や見学先での会話やあいさつ、質問や感想発表などに生かされている。
○ 教材研究をして、授業の質を高める。
○ 生活単元学習で小学部児童が「さつまいもをきる」など、国語で学んだ助詞の使い方を生かして発言することがあった。
○ 国語の学習場面で活用する場面を具体的に提示したことで、課題意識を高めて授業を進めることができた。
○ ●改まった発表場面では、話し方を意識して話すようになったが、日常生活においてはまだ十分に活用できていない。だが、自分の思っていることを伝えることの楽しさや意義を感じている様子が見られる。
●他のグループの学習内容を周知して生かすことが難しかった。
●担任との情報共有が少なかった。
●児童生徒の実態にもよると思い、ちょっとよく分からなかった。

Q５　今年度の全校研究へのご意見・ご感想、次年度への課題や改善案等を記入してください。

○ 国語科は難しくまだまだ勉強が必要な領域ですが、国語科で学んだことを活用するという流れを研究部の皆さんを中心に引っ張っていただいたおかげで、昨年度よりは確実に職員は意識して取り組んだ一年だったと思う。
○ 言語環境を取り上げたことで、自分の言葉遣いや話し方などを振り返る良い機会となった。
○ 国語科の学習内容や指導方法を工夫し、他の学習や日常生活での表現に生かすことができた。授業づくり研修会での言語環境づくりの研修や指導助言が大変勉強になった。
○ 国語に特化して授業づくりを行うことで、合わせた指導、特に生単の授業作りや目標設定にもつながったと感じます。
○ 児童生徒たちは気持ちや意見を伝えることに少しずつ自信が付いてきている。
○ 期日等を柔軟に調整しながら、授業研究会や授業を見合う会等を、ほぼ計画どおり推進された研究部職員の皆さんに感謝する。
○ 授業の手立てについて学びを深めることができたが、それ以上に国語の学習のあり方について、広く考える機会が幾つもあったと思う。限られた時間でどのような学習をするのか、どのような国語力が学校以外で役に立つのか、卒業後に生きるのかについて考えることができた。
●学部の研究テーマを設定し、研究に取り組むことで、より仮説に迫る取組ができるのではないかと感じた。
●授業を見合う会は、行事等が立て込んでいる時には限られた時間で動画を視聴しコメントを入れるのがきつい時があった。動画ではなく、参観できる体制を整えた方がよいと感じた。また、授業を見ていただいた後のコメントが入っておらず、忙しくしている先生方に伝えにくいと感じた。参観体制と同様に時間を確保する等して負担感なく実施出来ればと

感じた。
●研究会はいつも勉強になっている。国語の授業の中での ICT の活用について、先生方で紹介し合う機会があると有難いなと感じた。
●指導案の書式について、単元の個人目標と本時の個人目標を書く項目があり、ほぼ同じような内容の記載になるため、単元の目標のみでいいと感じた。簡潔に記載でき、見る人が分かりやすい指導案の様式であればいいと感じる。
●教科としての国語を生活に生かしていくのは、難しいと感じた。